

令和6年度シラバス(第一看護学科)

30期生 1年次

授業科目	論理学	担当教員	小山 虎	単位	1	学習時間数	15
目的	論理と言葉の関係を理解し、論理的構造を踏まえて文章を書けるようになる。						
授業概要	接続詞に注目することから始めて、論理的な文章にとって必要なポイントを一つ一つ学んでいきます。最終的には論理的な文章を書けるようになるのが目標です。						
回	項目	内 容				教授学習方法	備 考
1	イントロダクション	「論理的」とは何かを、論理と言葉の関係を中心に説明する。				講義	
2	接続詞	接続詞に注目することで、文章の論理的つながりを見つける。				講義	
3	議論の骨格	接続詞の使われ方に基づいて、議論の骨格を取り出す。				講義	
4	主張と根拠	議論の構造から、主張とそれを支える根拠を見分ける。				講義	
5	論証	主張と根拠の結びつき方の違いによって、論証を分類する。				講義	
6	仮説と説明	論証の分類に基づいて、仮説と説明を使い分ける。				講義	
7	まとめと応用	授業で学んだことを元に、論理的な文章を書いてみる。				講義	
8	試験	試験とその解説				講義	

評価：筆記試験

テキスト 資料配布

令和6年度シラバス(第一看護学科)

30期生 1年次

授業科目	教育学	担当教員	佐々木 司	単位	1	学習時間数	30
目的	教育の原理を学び、対象に対しての教育的な関わり方を理解する。 生涯学習について理解する。						
目標	1 医療分野における教育の意義を理解する。 2 人間の発達と可能性に及ぼす教育の影響について理解する。 3 学校教育の課題や制度的変容を理解する。 4 生涯学習の意義について理解する。 5 「模擬授業」を行うことによって、教育者・指導者としての課題と改善点を知る。						
回	項目・内容					教授方法	備考
1	授業についての説明、学び方を学ぶ					グループワーク	
2	アイスブレイキングの技法					グループワーク	
3	人間の発達と教育					講義	
4	学校という制度					講義	
5	生涯学習の意義					講義	
6	学校教育の改善策					グループワーク	
7	社会教育のしくみ					講義	
8	進路指導と生徒指導					講義	
9	教育者・指導者の職務と責任					グループワーク	
10	教育方法の基礎					講義	
11	授業・プレゼンの構成要素と発問の組織化					講義	
12	指導案の作成					演習	
13	「模擬授業」をやってみる					グループワーク	
14・15	まとめ、振り返り					グループワーク	
試験	筆記試験						

評価の方法：筆記試験

テキスト：やさしく学ぶ教育原理 ミネルヴァ書房

令和6年度シラバス（第一看護学科）

30期生 1年次

授業科目	情報科学	担当教員	幡谷 泰史	単位	1	学習時間数	30
目的	情報の収集、分析、処理技術の基本を学び、情報化に対応しうる能力を養う。						
目標	1 情報処理のためのパソコンの基本操作を学ぶ。 2 情報セキュリティ、情報倫理を理解し、インターネットや情報サービスを正しく活用することができる。 3 基本的な統計データの整理の仕方・統計資料の表現と解釈方法の基礎を学ぶ。						
回	項目	内 容				教授学習方法	備 考
1	コンピュータの基礎知識 メールソフト 文書作成ソフトの使い方	1 パソコン操作の基本 (1) 基本操作 (2) アカウント管理（ログイン、ログアウトの方法） (3) トラブルへの対応 (4) インターネット検索 2 メールの基本 (1) 文章の編集方法 (2) メッセージの送受信 (3) メールマナー 3 Wordの基本 (1) 文章の編集方法 (2) ページ設定の方法（文字数、行数、余白、フォント） (3) 表の作成、オートシェイプの挿入 (4) タイピング 4 プリンタの使い方				講義 (情報機器の利用)	
2	表計算ソフトの使い方	1 Excelの基本 (1) 表計算 (2) 関数の利用 (3) セルの詳細設定 (4) グラフの作成（折れ線グラフ、円グラフ、帯グラフ）				講義 (情報機器の利用)	
3							
4	コンピュータの基礎知識 情報セキュリティ 情報倫理	1 個人情報の保護 (1) パスワードの管理 (2) USBの管理 2 セキュリティ (1) パソコンやインターネットを利用する上での危険性 と対策（コンピュータウイルス、セキュリティホール） 3 インターネットリテラシー (1) 著作権や情報保護に関する法律 (2) SNSの利用について (3) ネットワークエチケット				講義 (情報機器の利用)	萩市民病院 中村健治
5	統計の基礎	1 統計の基礎知識 (1) 基本統計量（範囲、平均、最大、最小、分散、標準偏差） (2) データの整理 (3) 相関（度数分布とヒストグラム、正規分布、散布図） (4) 仮説検定 （帰無仮説、対立仮説、有意水準、棄却域、片側検定と両側検定、 χ^2 検定、分割表による検定）				講義 (情報機器の利用)	
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14	プレゼンテーションソフトの使い方	1 Power Pointの基本 (1) プレゼンテーションの方法、基本 (2) 基本操作、アニメーションの設定 (3) プレゼンテーション資料の作成 (4) 配布資料の印刷 2 プレゼンテーションの実践				講義 (情報機器の利用) プレゼンテーション	
15	試験						

評価の方法：試験・参加状況等
テキスト：資料配布

令和6年度シラバス(第一看護学科)

30期生 1年次

授業科目	生命と倫理	担当教員	田中 昌子	単位	1	学習時間数	30
目的	生命や医療にまつわる生命倫理の立場から、様々な医療環境における問題を考える力を学ぶ。						
目標	正確な知識と理解に立って問題を捉えることの重要性を学ぶ。						
回	項 目	内 容				教授学習方法	備 考
1	倫理学の基本的な考え方	1 倫理・倫理学とはなにか 2 倫理理論				講義 グループワーク	
2		3 他者理解と対話のための理論					
3	生命倫理	1 生命倫理とはなにか				講義 グループワーク	
4		2 生命倫理の理論					
5		3 看護職の責務					
6	生殖の生命倫理	1 性の生命倫理				講義/DVD グループワーク	
7		2 生殖の生命倫理					
8		3 生殖の生命倫理（医療的介入）					
9	死の生命倫理	1 死について				講義 グループワーク	
10		2 死と医療					
11		3 死についての生命倫理の課題					
12	先端医療と制度をめぐる生命倫理	1 移植医療				講義 グループワーク	
13		2 再生医療 3 遺伝子医療					
14		4 医療資源と医療保険制度 5 薬害問題					
15		試験					
		筆記試験					

評価の方法：筆記試験

テキスト：看護倫理 医学書院

DVD：『終わりのない生命の物語-CASE 1 わたしたちの選択 出生前検査』（12分）

DVD：『終わりのない生命の物語-CASE 5 見えない終止符 不妊治療』（12分）

令和6年度シラバス(第一看護学科)

30期生 1年次

授業科目	心理学	担当教員	杉浦 崇仁	単位	2	学習時間数	45
目的	要支援者を支援するために、医療現場で必要とされる心理学全般を理解する。						
目標	1 自分自身の感情、思考、行動を理解する方法が分かる。 2 要支援者の気持ちを汲み取り、自身が医療職として何を必要されているか分かる。 3 組織人として必要なスキルが分かる。						
回	項目	内 容				教授学習方法	備考
1	ガイダンス					演習	
2	心理学全般	心理学の歴史・研究法・感覚と知覚				講義	
3	学習心理学	記憶・思考・学習				講義	
4	人格心理学	感情・性格とパーソナリティー				講義・演習	
5	発達心理学	発達段階について				講義	
6	社会心理学	対人関係と集団について				講義	
7	臨床心理学	心理学的な知識・技法・症状について				講義・演習	
8	臨床心理学	心理学的な知識・技法・症状について				講義・演習	
9	臨床心理学	心理学的な知識・技法・症状について				講義・演習	
10	臨床心理学	心理学的な知識・技法・症状について				講義・演習	
11	カウンセリング	カウンセリングの方法と実際				講義・演習	
12	メンタルヘルス	セルフケアについて				講義・演習	
13	メンタルヘルス	ハラスメント対応について				講義・演習	
14	メンタルヘルス	ワークエンゲイジメントについて				講義・演習	
15	試験						

評価の方法：試験70%+授業態度、授業アンケート30%

テキスト：

参考文献：医学書院：心理学

令和6年度シラバス(第一看護学科)

30期生 1年次

授業科目		社会生活論		単位	1	学習時間数	15
担当 教員			実務経験		主な実務経験場所		
	非常勤講師（15）		有・無		備考参照		
目的	豊かな人間性を養い、相手を尊重した態度で接することのできる社会人基礎力を高める。						
目標	1 相手を尊重できる接遇の方法を学ぶ。 2 ビジネスマナーの基本を学び、コミュニケーション能力を高める。 3 人の心を感じ取ることのできる感性を養う。 4 社会人としての教養を身につける。						
回数	項 目	内 容				教授学習方法	担当講師
1	接遇	基本的なマナー				講 義 演 習	波多野医院 波多野加保理
2	ホスピタリティ	1 おもてなしのころを知る				講 義	ケイ・アン ド・ワイ 秋穂 由香
3		2 おもてなしのコミュニケーション				講 義	
4		3 聞き方・話し方				講 義 演 習	
5	表現（音楽）	1 人と音楽				講 義	Music&Arts ウィンディ 山根 浩志
6		2 看護と音楽の関連				講 義 演 習	
7		3 音楽療法				講 義 演 習	
8		4 サマーコンサート				演習	

評価方法

ホスピタリティレポート (50点) ・ 音楽レポート (50点)

令和6年度シラバス(第一看護学科)

30期生 1年次

授業科目	健康と運動	担当教員	岡野 亮介	単位	1	学習時間数	15
目的	運動が身体に及ぼす影響を理解し、身体運動を通して健康の維持増進を学ぶ。						
目標	1 運動時の生理学的機能及び健康と運動について理解する。 2 運動適応のメカニズムを理解する。 3 スポーツ事故の事例とその予防方法について理解する。 4 運動の効果を理解する。						
回	項目	内 容				教授方法	備 考
1	健康障害要因	現代社会における健康障害要因であるストレス、休養の喪失、運動不足、栄養の偏り・過剰摂取等と身体運動の効果について説明。				講義とDVD視聴	
2	運動と栄養	5大栄養素と運動の関係、グリコーゲンローディング、筋肉づくりのための食事の摂取タイミングと睡眠、活性酸素の影響と抗酸化作用のある食品等について説明。				講義とDVD視聴	
3	溺死について	溺死の原因（気管内吸水説、錐体内出血説、不整脈説、パニック説、ノーパニック症候群等）とその予防法について説明。				講義とDVD視聴	
4	運動による骨粗鬆症予防	骨密度について概説し、骨粗鬆症の発生原因及び予防方法を身体運動と栄養摂取の立場から説明。				講義とDVD視聴	
5	睡眠と生体リズム	レム睡眠、ノンレム睡眠、体内時計、生体リズムと学習、身体運動及び健康との関係を説明する。また、各種の睡眠障害について説明。				講義とDVD視聴	
6	喫煙と身体活動	喫煙および副流煙の身体に及ぼす影響、喫煙によって発症する疾病及び禁煙方法について説明する。また、喫煙の身体活動に及ぼす影響について説明。				講義とDVD視聴	
7	運動中の突然死	運動中の突然死の原因及び突然死を起こしやすいスポーツについて説明。				講義とDVD視聴	
8	体力と体力トレーニング	行動体力、防衛体力及び各種の体力トレーニングを解説し、体力と健康の保持増進の方法を説明。				講義とDVD視聴	
	試験	筆記試験					

評価の方法：筆記試験（毎時間の小テストを含む）

テキスト：各回において資料を配付

令和 6 年 度 シ ラ バ ス (第一看護学科)

30期生 1 年次

授業科目	解剖学	担当教員	柳井 和年	単位	2	学習時間数	60
目的	人体を系統的に学習し、看護する上で必要な人体の構造と機能を学ぶ。						
目標	1 消化器系の解剖を理解する。 2 循環器系の解剖を理解する。 3 呼吸器系の解剖を理解する。 4 血液・造血機能系の解剖を理解する。 5 腎・排泄系の解剖を理解する。 6 内分泌系の解剖を理解する。 7 神経系の解剖を理解する。 8 感覚器系の解剖を理解する。 9 免疫系の解剖を理解する。						
回	項 目	内 容				教授方法	備 考
1・2	体液	体液・リンパ・間質液				講義	
3・4	消化器	口腔・咀嚼・嚥下・胃・胃液				講義	
5・6		腸・栄養素・膵臓・肝臓				講義	
7・8	呼吸	肺・上気道・気管・気管支				講義	
9・10	循環	心臓・冠動脈・体循環				講義	
11・12		肺循環・血管・動脈・静脈				講義	
13・14	血液	骨髄・造血				講義	
15・16	尿生成・排泄	腎・尿管・膀胱・尿道				講義	
17・18	試験と学習	排泄機序				講義	
19・20	内分泌	視床下部・甲状腺・上皮小体				講義	
21・22	神経系	膵臓・副腎・性腺・分泌調節・脳・脊髄				講義	
23・24	自律神経	脳・脊髄・脊髄神経・自律神経				講義	
25・26	視覚・聴覚	視力・視野・色覚・調節・音・聴覚				講義	
27・28	生体防御	非特異的防御・免疫・抗体				講義	
29・30	試験と学習	体温調節・発熱・高体温				試験・講義	

評価の方法：筆記試験

テキスト：解剖生理学 医学書院

令和 6 年 度 シ ラ バ ス (第一看護学科)

30期生 1年次

授業科目		看護形態機能学	単位	1	学習時間数	15
担当教員			実務経験	主な実務経験場所		
	村上 陽子（4）		㊦・無	山口県立総合医療センター		
	田中 里紗（4）		㊦・無	山口県立総合医療センター		
	篠田 由佳里（4）		㊦・無	山口県立総合医療センター		
	高島 雄太（3）		㊦・無	山口県立こころの医療センター		
目的	解剖学・生理学の知識を活用し、人の日常生活行動を支えるための仕組みを理解する。					
目標	1 人のからだは日常生活行動をどのように成し遂げているのかを理解する。 2 解剖学・生理学で学んだ知識を日常生活援助と関連づけることができる。					
回	項 目	内 容		教授学習方法		備 考
1	オリエンテーション	1 導入・演習のガイダンス 2 からだの白地図 3 何のための生活行動か		講義 VTR グループワーク		
2	日常生活行動の理解	1 動く		講義 VTR グループワーク		・各講義の前に事前学習をすること。 ・各講義の最初にプレテストを実施。
3		2 食べる				
		3 トイレに行く				
4		4 息をする				
		5 話す・聞く				
5		6 眠る・日にあたる				
		7 お風呂に入る				
6	まとめ	1 ワークシートのまとめ		グループワーク 発表会		各グループの発表を聞き、ワークシートをまとめる。
7		2 発表会				
8	試験					

評価の方法：筆記試験 40点、課題 50点、発表会 10点

テキスト：菱沼 典子：看護形態機能学 生活行動からみるからだ, 日本看護協会出版会, 第4版, 2017年
解剖生理学, 医学書院

令和6年度シラバス(第一看護学科)

30期生 1年次

授業科目		生理学		単位	2	学習時間数	60
担当教員	非常勤講師 (看護師)	実務経験	○ 無	主な実務経験場所		備考参照	
目的	生物が生きていく仕組みを系統的に学習し、看護する上で必要な人体の構造と機能を学ぶ。						
目標	1 消化器系の生理を理解する。 2 循環器系の生理を理解する。 3 呼吸器系の生理を理解する。 4 血液・造血機能系の生理を理解する。 5 腎・排泄系の生理を理解する。 6 内分泌系の生理を理解する。 7 神経系の生理を理解する。 8 感覚器系の生理を理解する。 9 免疫系の生理を理解する。						
回	項 目	内 容			教授方法	備 考	
1・2	体液	体液・体液調節・PH・脱水・浮腫			講義	クリティカルケア認定看護師 日本DMAT隊員 磯本 一夫	
3・4	消化器	口腔・咀嚼・嚥下・胃・胃液			講義		
5・6		腸・栄養素・膵臓・肝臓・排便			講義		
7・8	呼吸	呼吸運動・呼吸気量・ガス交換・呼吸調節			講義		
9・10	循環	心拍出・ECG・心収縮			講義		
11・12		血圧・血圧調節・循環系の病態生理			講義		
13・14	血液	赤血球・Hb・白血球・血小板・血沈・凝固・血液型			講義	長門総合病院 臨床輸血看護師 上田 充哉子	
15・16	尿生成・排泄	尿生成機序・GFR・生理活性物質			講義	長門総合病院 皮膚排泄ケア認定看護師 下田 智美	
17		排泄機序・尿成分・尿性状・排尿異常			講義		
18	試験と学習				試験		
19・20	内分泌	作用機序・視床下部・甲状腺・上皮小体			講義	長門総合病院 認定看護管理者 大田 富美代	
21・22	神経系	膵臓・副腎・性腺・分泌調節・脳・脊髄			講義	クリティカルケア認定看護師 日本DMAT隊員 磯本 一夫	
23・24	自律神経	脳・脊髄・脊髄神経・脳高次機能 自律神経・伝達物質			講義		
25	視覚	視力・視野・色覚・遠近調節			講義	さがら眼科クリニック 医師：相良 健	
26	聴覚	音・聴覚			講義	都志見病院 医師：岡崎 英紀	
27・28	生体防御	非特異的防御・免疫・抗体			講義	長門総合病院 感染管理認定看護師 松田 純一	
29		体温調節・発熱・高体温			講義		
30	試験と学習				試験		

評価の方法：筆記試験（磯本先生60点 大田先生他40点）

テキスト：解剖生理学 医学書院

令和6年度シラバス（第一看護学科）

30期生 1年次

授業科目	生化学	担当教員	村上 柳太郎	単位	1	学習時間数	30
目的	生命現象の基礎を一連の化学反応として理解し、生体の恒常性を維持していく機構と恒常性の乱れや、いろいろな生命現象の根底にある物質的過程が疾患の病態の重要な部分となることを理解する。						
回	項目	内 容				教授学習方法	備考
1・2	生化学を学ぶための基礎知識	生化学とは 生体の化学の基礎知識 生命とは 細胞の構造と機能				講義	
3	代謝の基礎と酵素・補酵素	代謝と生体のエネルギー 酵素の基礎知識 補因子 ビタミン 酵素の反応速度 酵素の阻害				講義	
4・5	糖質の構造と機能 糖代謝	糖質とは 単糖の構造と機能 二糖の構造と機能 多糖の構造と機能 糖質の消化と吸収 グルコースの分解 グリコーゲン代謝 ペントースリン酸経路 糖新生 ガラクトース、マンノース、フルクトースの分解 糖質代謝に関する遺伝性疾患				講義	
6・7	脂質の構造と機能 脂質代謝	脂質とは 脂質の種類 リポタンパク質 脂質の消化と吸収 脂肪酸の分解 脂質の合成 脂質代謝に関する遺伝性疾患				講義	
8・9	タンパク質の構造と機能 タンパク質代謝	タンパク質とは アミノ酸 タンパク質の構造 タンパク質の消化と吸収 アミノ酸の分解 非必須アミノ酸の合成				講義	
10	遺伝子と核酸	遺伝情報 遺伝学の基礎知識 核酸の構造と機能 核酸の代謝				講義	
11	遺伝子の複製・修復・組換え	DNAの複製 DNAの修復 DNAの組換え DNA修復機構の異常による遺伝性疾患 遺伝子多型				講義	
12	転写と翻訳	転写とは 転写の開始とRNA 鎖の伸長 転写の終結 RNAのプロセシング 遺伝子の発現調節				講義	
13	細胞のシグナル伝達	シグナル伝達の概要 細胞内シグナル伝達の機序 内分泌の生化学的基盤				講義	
14	がん	がんの性質 細胞周期とがん がん遺伝子 がん抑制遺伝子 染色体転座 がん薬物療法				講義	
15	試験	筆記試験（ノート持込み不可）				試験	

評価の方法：筆記試験

テキスト：生化学 医学書院

令和6年度シラバス(第一看護学科)

30期生 1年次

授業科目		病理学		単位	1	学習時間数	30
担当教員	非常勤講師（医師）	実務経験	○有・無	主な実務経験場所		備考参照	
目的	人体組織における病態状態は、形態的にどのような変化反応を示すかということを知り、疾患を理解する上での裏付けの知識とする。分化の基本的概念を知り、ものの考え方の多様性と普遍性を理解する。						
目標	基本的な病変の原因、発生、機序の形態的变化を理解し、診断治療検査について理解する。						
回	項 目	内 容			教授学習方法	備 考	
1～2	病理学で学ぶこと	病理学で学ぶこと・病気の現認			講 義	県立総合医療センター 医師： 中村康彦	
	病理検査	細胞診、組織診、迅速検査、病理解剖					
	生活習慣と環境因子による生体の障害	生活習慣・放射線による生体の障害、中毒					
3～4	細胞・組織の障害と修復	細胞の損傷と適応、組織の修復と創傷治癒			講 義	県立総合医療センター 医師： 中村康彦	
	代謝障害	物質の沈着、脂質代謝障害と疾患、たんぱく質代謝障害と疾患					
5～6	循環障害	局所の循環障害			講 義	川上診療所 医師： 佐久間暢夫	
		全身の循環障害					
7～8	炎症と免疫、膠原病	炎症、免疫			講 義	県立総合医療センター 医師： 武藤正彦	
		自己免疫性疾患、膠原病、移植					
9～10	感染症	宿主の防御機構、治療			講 義	県立総合医療センター 医師： 中村康彦	
11～12	腫瘍	腫瘍の発生病理、悪性腫瘍			講 義	川上診療所 医師： 佐久間暢夫	
	老化と死	老化、個体の死、緩和医療					
13～14	先天異常と遺伝子異常	先天異常			講 義	県立総合医療センター 医師： 武藤正彦	
		遺伝性疾患					
15	試験	筆記試験					

評価の方法：試験(武藤先生30点、中村先生40点、佐久間先生30点)

テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学 医学書院

令和6年度シラバス(第一看護学科)

30期生 1年次

授業科目		病態症候学		単位	1	学習時間数	30
担当教員	非常勤講師 (医師)	実務経験	○有・無	主な実務経験場所		備考参照	
目的	臨床において、共通する主な症状の病態生理と治療について学ぶ。						
目標	1 内分泌・血液疾患・全身病態の病態生理と治療を理解する。 2 循環器症状の病態生理と治療を理解する。 3 消化器症状の病態生理と治療を理解する。 4 呼吸器症状の病態生理と治療を理解する。 5 骨・関節症状の病態生理と治療を理解する。						
回	項目	内容			教授方法	備考	
1・2	内分泌・血液疾患・全身病態	高体温、低体温			講義	県立総合医療センターへき地医療支援部 医師：原田昌範	
		ショック			講義		
3・4		頭痛			講義	県立総合医療センターへき地医療支援部 医師：宮野馨	
		貧血			講義		
5・6		倦怠感			講義	県立総合医療センターへき地医療支援部 医師：片山寛之	
		リンパ節腫脹			講義		
7・8		浮腫			講義	県立総合医療センターへき地医療支援部 医師：陣内聡太郎	
		脱水			講義		
9・10		意識障害			講義	県立総合医療センター医師：市村尚之	
		痙攣			講義		
11	呼吸器症状	呼吸困難、咳嗽、喀痰、咯血			講義	萩市民病院 医師：米澤文雄	
12	循環器症状	胸痛、チアノーゼ、不整脈			講義		
13	消化器症状	腹痛、食欲不振、悪心、嘔吐、腹水			講義	萩市民病院 医師：藤村寛之	
14		腹部膨満、吐血、下血、下痢、便秘、黄疸			講義		
15	骨・関節症状	腰背部痛、関節痛			講義	萩市民病院 医師：武藤正記	
	試験	筆記試験					

評価方法：試験(原田先生60点、米澤先生15点、武藤先生10点、藤村先生15点)

テキスト：疾病の成り立ち 病態生理学 山内豊明編 メディカ出版

令和6年度シラバス(第一看護学科)

30期生 1年次

授業科目	微生物学	担当教員	大塚 仁：(14) 下田 宙：(16)	単位	1	学習時間数	30
目的	微生物の特徴と生体に及ぼす影響を理解し、その予防と治療について学ぶ。						
目標	微生物の特性と生体に及ぼす影響を理解し、感染症の予防と治療に対して微生物学的知識に基づいた看護を実践できる。						
回	項目	内 容				教授学習方法	備 考
1～8	ウイルス学総論 免疫学 ウイルス学各論 真菌学 原虫学	ウイルスの特性と定義、構造 ウイルスの増殖、分類、 ウイルスと宿主のかかわりあい ウイルス感染症の予防と治療 免疫の種類、免疫系と免疫応答、抗原とは 抗原の認識、液性免疫、細胞性免疫 感染防御免疫、免疫病 ヘルペスウイルス、インフルエンザウイルス エンテロウイルス、ロタウイルス、カリシウイルス HIV、肝炎ウイルス 真菌学、原虫学総論、各論				スライド 講 義	下田
9～15	微生物学総論 細菌学各論	微生物学の歴史、分類 細菌の特性 感染と発病・予防 滅菌と消毒 化学療法・抗生物質 細菌学的検査法 グラム陽性球菌 グラム陰性球菌 グラム陰性好気性桿菌 グラム陰性通性嫌気性桿菌 グラム陽性無芽胞桿菌 グラム陽性芽胞形成桿菌 スピロヘータ カンピロバクター リケッチア クラミジア マイコプラズマ				スライド 講 義	大塚
	試験	筆記試験					

評価の方法：試験（大塚先生50点、下田先生50点）

テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進（4） 微生物学 医学書院

令和6年度シラバス(第一看護学科)

30期生 1年次

授業科目		薬理学総論		単位	1	学習時間数	15
担当教員	玉一 寛之	実務経験	有・無	主な実務経験場所		都志見病院薬剤師	
目的	薬物の特徴・作用機序など薬物についての基礎知識を理解する。						
目標	1 薬物療法の目的及び薬理作用と作用機序を理解する。 2 薬物動態と薬効を理解する。 3 薬物の主作用・副作用を理解する。 4 薬物相互作用を理解する。 5 医薬品管理及び薬用量の換算ができる。						
回	項 目	内 容				教授方法	備 考
1	薬理学とは	薬理学とは 薬物療法の目的				講義	
2	薬理作用と作用機序	薬理作用とは 作用機序				講義	
3	薬物動態と薬効	薬物動態 薬効				講義	
4	薬物の主作用・副作用	主作用とは 副作用とは				講義	
5	薬物相互作用	薬物相互作用とは 相乗効果等				講義	
6	医薬品管理と取扱い	劇薬・毒薬など 麻薬 薬用量と換算				講義 演習	
7	末梢神経系作用薬	自律神経作用薬 筋弛緩薬 局所麻酔薬				講義	
8	試験	筆記試験					

評価の方法：筆記試験

テキスト：薬理学 医学書院

令和6年度シラバス(第一看護学科)

30期生 1年次

授業科目		栄養学		単位	1	学習時間数	15
担当教員	山本節子	実務経験	有・無	主な実務経験場所		元都志見病院栄養士	
目的	人間にとって栄養の意義と健康な生活を営むための適正な栄養、食事の取り方について学ぶ。						
目標	1 治療の一環として出される食事について学ぶ。 2 各疾患の特徴・適応・効果について知識を得る。 3 食事の重要性を学ぶ。						
回	項 目	内 容			教授学習方法	備 考	
1	栄養の定義	・生活上基本的なものとしての食 ・栄養 ・代謝 ・栄養素の種類 ・栄養素の働き			講義		
2	臨床栄養学の意義	・栄養食事療法の意義 ・疾病の治療・予防における栄養 ・QOLと栄養 ・治療の一環としての栄養 ・治療食の種類			講義		
3	高血圧の食事療法	・疾患の概要 ・成因・症状 ・合併症・診断・治療 ・栄養食事療法の原則 ・栄養食事療法の実際			講義		
4	糖尿病の食事療法	・疾患の概要 ・成因・症状 ・合併症・診断・治療 ・栄養食事療法の原則 ・栄養食事療法の実際 ・栄養のアセスメント ・栄養基準 ・糖尿病食事交換表の利用			講義		
5・6	実習 (生活習慣病の食生活)	・栄養管理 (どのような食品をどのくらい量・調理後の量) ・調理の実際 ・衛生管理 (食品・人・施設・設備機器)			実習		
7	食事療法	・疾患の概要 ・成因・症状 ・合併症・診断・治療 ・栄養食事療法の原則 ・栄養食事療法の実際 ・栄養のアセスメント ・栄養基準 ・交換表の利用			講義		
8	試験	筆記試験					

評価の方法：筆記試験・演習の内容

テキスト わかりやすい栄養学 ヌーベルヒロカワ

糖尿病食事療法のための食品交換表 日本糖尿病協会・文光堂

必要に応じて、参考資料を教示する。

令和6年度シラバス(第一看護学科)

30期生 1年次

授業科目		保健医療論		単位	2	学習時間数	30
担当教員	滝口 治代	実務経験	有・無	主な実務経験場所		山口県立総合医療センター	
目的	わが国の医療の現状や動向を学び、医療の今日的課題と医療専門職のあり方を考える。						
目標	1 医療や看護の原点について理解する。 2 医学の歴史と科学としての医学について考える。 3 わが国の保健・医療・介護の現状を知る。 4 現代の医療にかかわる諸問題について理解する。 5 社会全体の視点で医療を考える。						
回	項 目	内 容				教授学習方法	
1	保健医療論の概要	1 保健医療論の位置付けと学習目標				講義・ディスカッション	
2・3・4	生きることと死ぬこと	1 生命を尊ぶ心 2 健やかに生きる 3 老いてこそ人生 4 おだやかに死ぬことー終末期を考える				講義・GW	
5	医学と医療	1 医学の歴史 2 臨床疫学とEBM				講義・ディスカッション	
6・7・8・9・10・11	保健・医療・介護ー切れ目ないサポートの実現	1 保健・医療・介護を取り巻く社会環境の変化 2 社会保障制度 1) 社会保険 2) 公的扶助 3) 社会福祉 3 公衆衛生と保健 1) 社会保険 2) 公的扶助 3) 社会福祉 4) 学校保健 5) 産業保健 6) 精神保健 7) 環境保健 8) 国際保健 9) 生活習慣病等予防 4 わが国の医療システム 1) 病院と診療所 2) 医療従事者 3) 受診から入院まで 4) 地域医療連携 5 救急医療・集中治療 6 がん治療 7 周産期医療 8 放射線診断 9 チーム医療 10 リハビリテーション 11 介護				講義・GW	
12・13	医療と社会	1 医の倫理 2 医療安全 3 医薬品 4 最先端医療 5 医療情報				講義・ディスカッション	
14	医療経済学と医療政策	1 経済学を用いて医療を読みとく 2 転換を迫られる医療政策				講義・ディスカッション	
15	試験	筆記試験					

留意事項：事前課題・事後まとめを行うこと

評価の方法：筆記試験（80点）／レポート・課題他（20点）

テキスト：医療概論 医学書院

参考文献：国民衛生の動向 基礎看護学（看護学概論） 看護業務基準集 他

令和 6 年 度 シ ラ バ ス (第一看護学科)

30期生 1年次

授業科目		看護学概論 1 (看護の概要)	単位	1	学習時間数	30
担当 教員			実務経験		主な実務経験場所	
	藤井 早苗 (30)		(有)・無		山口県立総合医療センター	
目的	看護の根幹となる看護の概要を学ぶ。					
目標	1 看護の主要概念を理解する。 2 看護の対象、目的、機能を理解する。 3 主要な看護理論を理解する。 4 健康を統計的に理解する。					
回数	項目	内 容			授業学習方法	備考
1・2	看護の定義	1 保助看法における定義 2 看護職能団体による看護の定義			講 義 協同学習	DVD視聴
3	看護理論家にみる 看護の定義	1 看護理論家の業績とその体系 看護哲学 概念モデル 中範囲理論 2 看護におけるメタパラダイム			講 義 協同学習	
4	看護理論 (看護哲学)	ナイチンゲール ヘンダーソン ウィーデンバック 主要な看護理論家の看護概念と著作			協同学習	
5	看護理論 (概念モデル)	オレム ロイ 主要な看護理論家の看護概念と著作			協同学習	
6	看護理論 (中範囲理論)	ペプロウ トラベルビー 主要な看護家の看護概念と著作			協同学習	
7・8	看護ケアについて	ケアリング 看護実践とその質保証に必要な要件 クリティカルシンキング EBN			協同学習	
9	看護の継続性と協働	看護の継続性と連携 チーム医療 多職種チームとしての情報共有と継続的な関わり 在宅療養を支える連携と継続的な関わり			講 義 協同学習	わのゲーム
10	看護の対象の理解の ための基本的理論 人間のこころとからだ	ホメオスタシス セリエのストレス学説 コーピング マズローの欲求段階説 危機理論キューブラー＝ロスの死にゆく人の心理過程 フィ ンクの危機モデル コーンの危機モデル			講 義 協同学習	
11	健康のとらえ方	健康の定義 障がい ICF 一次予防 二次予防 三次予防 ヘルスプロモーション 国民の健康の全体像			講 義 協同学習	
12	国民の健康・ 生活全体像の把握	1 国民全体の健康状態 2 患者の状況 3 健康・生活とQOL			講 義 協同学習	国民衛生の 動向
13・14	国民のライフサイクルと 健康・生活	1 平均寿命と出生 死亡率 2 子供の健康 就学と社会的自立 結婚と出産 3 仕事と生計 ワークライフバランス 4 健康の社会的決定要因と健康格差 5 健康・生活とQOL			講 義 協同学習	国民衛生の 動向
15	試験					

評価の方法：筆記試験、(80点満点) 課題・提出物等 (合計20点)

テキスト：1) 系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論 基礎看護学①

参考文献：2) 看護覚え書き 3) 看護の基本となるもの 4) 人間対人間の看護
5) 臨床看護の本質 6) 国民衛生の動向 7) 中範囲理論

令和6年度シラバス(第一看護学科)

30期生 1年次

授業科目		看護学概論 2 (職業としての看護・臨床判断)	単位	1	学習時間数	30
担当 教員			実務経験		主な実務経験場所	
	吉山 弓子 (26)		◯有・無		山口県立総合医療センター	
	非常勤講師 (4)		◯有・無		備考参照	
目的	看護の歴史・制度を理解し、自律した看護職のあり方を考える。 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を養う。					
目標	1 職業としての看護の成り立ちを理解する。 2 看護職の養成制度を理解する。 3 看護職者の継続教育とキャリア開発を理解する。 4 看護職者の倫理を理解する。 5 看護の思考のプロセスとなる臨床判断の基礎を理解する。					
回	項 目	内 容			教授学習方法	備 考
1・2	職業としての看護	1 職業としての看護のはじまり 2 職業としての看護の確立 3 職業としての看護の充実 4 職業としての看護の発展			講義 協同学習	
3・4	看護職の資格・養成 制度・就業状況	1 看護職の資格 2 看護職の養成制度 3 看護職者の就業状況			講義/DVD 協同学習	
5	看護職者の継続教育 とキャリア開発	1 看護における継続教育 2 専門看護師・認定看護師・認定看護管理者 3 看護職のキャリア開発 4 看護職の養成制度の課題			講義 協同学習	
6・7	看護における 倫理	1 看護倫理を学ぶ意義 2 職業倫理としての看護倫理 3 患者の意思決定支援と守秘義務 4 医療専門職の倫理規定 5 医療をめぐる倫理原則とケアの倫理 6 看護実践場面での倫理的ジレンマと対応			講義 協同学習	
8・9	臨床判断総論	1 なぜアセスメントに臨床推論が必要か 2 臨床におけるアセスメントの段階			講義	クリティカルケア認定看護師、 日本DMAT隊員 磯本一夫
10	臨床判断モデル	1 Tannerの臨床判断モデル 2 臨床判断時のポイント			講義	
11・12・13		3 臨床判断モデル「気づく」 4 臨床判断モデル「解釈する」 5 臨床判断モデル「反応する」「省察する」			講義/DVD 協同学習	
		6 事例に基づく臨床判断			演習	
		14				
15		試験	筆記試験			

評価の方法：筆記試験 吉山：80点（職業としての看護：50点、臨床判断：30点）/レポート 磯本：20点

テキスト：系統看護学講座 専門1 看護学概論
 系統看護学講座 専門1 臨床看護総論
 看護に活かす基準・指針ガイドライン集2022 日本看護協会出版会

令和6年度シラバス(第一看護学科)

30期生 1年次

授業科目		基礎看護技術 1（共通基本技術）		単位	1	学習時間数	30
担当教員	宮本 里依子	実務経験	有・無	主な実務経験場所	山口県立こころの医療センター		
目的	看護技術の概念を理解し、看護を実践するための基礎となる知識・技術・態度を養う。						
目標	1 看護技術の特徴を理解する。 2 看護における安全と安楽の意味を考え、看護技術に反映する。 3 ボディメカニクスの原理を用いて安楽に効率的な体位変換ができる。 4 感染予防の意義を理解し、手洗いの重要性を認識できる。 5 人間関係づくりの基礎となるコミュニケーションに関する理論を理解し、効果的なコミュニケーションの技術を学ぶ。 6 快適な日常生活を過ごすことができるように病床環境を適切に整える援助技術を学ぶ。						
回	項目	内 容			教授学習方法	備 考	
1	看護技術の考え方	1 技術・技能とは、技術の修得段階 2 看護技術の定義と特徴（日本看護科学学会、保健師助産師看護師法） 3 看護技術の質 （1）クリティカルシンキング（2）EBN 4 看護専門職の責務・看護学生の責務 5 基礎看護学の位置づけ			講義		
2・3	看護技術の基盤としての安全と安楽	1 看護における安全 （1）安全の意味と安全に影響を及ぼす要因 ・マズローの基本的欲求階層による ・安全・安楽、自立の関係 ・対象の要因、看護師の要因、物理的環境要因 （2）医療安全の概念と安全管理 ・リスクマネジメント セーフティマネジメント インシデント、アクシデント （3）事故防止における看護師の行動 2 看護における安楽 （1）安楽の意味と安楽に影響を及ぼす要因			講義		
4		3 安楽を促す援助 （1）体位保持（ポジショニング） （2）電法 ・温電法 冷電法 （3）身体ケアを通じてもたらされる安楽			講義・演習		
5	生活環境と感染予防	1 感染と感染症 （1）院内感染（医療関連感染）（2）日和見感染 2 スタンダードプリコーション 3 滅菌と消毒			講義		
6		4 衛生的手洗い			講義・演習		
7	ボディメカニクスと体位変換	1 姿勢と体位 （1）姿勢、肢位、体位の違い（2）体位の種類と特徴 2 ボディメカニクスの原理			講義		
8		3 体位変換			講義・演習		
9	快適な生活環境を整える	1 生活環境と環境を整える意義 2 療養環境のアセスメントと調整 （1）病室に必要な環境条件 （2）快適な病床環境 （3）ベッド周囲の環境整備			講義・演習	④事前に読んでおく	
10	快適な病床の作成	1 ベッドメイキング 2 臥床患者のリネン交換			講義・演習		
11・12	人間関係の発展とコミュニケーション	1 人間関係を発展させる技術とは 2 患者－看護師関係 （1）ペプロウの患者－看護師関係の発展段階 （2）トラベルビーの対人関係の諸段階 3 看護におけるコミュニケーションの意義 4 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション 5 効果的なコミュニケーションと効果的ではないコミュニケーション 6 社会的コミュニケーションから治療的コミュニケーションへ			講義・演習	⑤事前に読んでおく	
13・14		7 プロセスレコードとは 8 ウィーデンバックに基づく看護過程とプロセスレコード			講義・演習		
15	観察	1 観察とは 2 観察の方法			講義		

評価の方法：受講状況・筆記試験・レポート

テキスト ①基礎看護技術Ⅰ ②基礎看護技術Ⅱ 医学書院
 ③看護がみえるVol. 1 基礎看護技術 メディックメディア
 ④看護覚え書き
 ⑤臨床看護の本質

令和6年度シラバス(第一看護学科)

30期生 1年次

授業科目		基礎看護技術 2（日常生活援助技術）		単位	1	学習時間数	30
担当教員	宮本 里依子	実務経験	有・無	主な実務経験場所		山口県立こころの医療センター	
目的	対象が安全・安楽に過ごせる日常生活援助技術の基礎を養う。						
目標	1 対象に適した食事を、その人らしく摂取できるようにする援助技術を学ぶ。 2 対象の状態を考慮し、安全・安楽で自然に排泄できる援助技術を学ぶ。 3 人間にとっての衣生活の重要性と衣生活の援助方法を学ぶ。 4 人間にとっての清潔の意義を理解し、身体各部位の清潔への援助方法を学ぶ。 5 活動と睡眠が生体に及ぼす影響と効果を理解し、効果的な活動と睡眠ができる援助方法を学ぶ。						
回	項 目	内 容			教授学習方法	備 考	
1～4	食べることへの援助	1 「食べる」ことの意義 2 栄養状態のアセスメント 3 摂食行動のアセスメント 4 安全・安楽な食事援助について考える (1) 食事形態 (2) 体位と嚥下			講義		
		5 食事摂取の介助 (1) 食事内容の調整 (2) 食事環境の調整 (3) 口腔ケア (4) 食事介助			講義・演習		
5～7	自然に排泄するための援助	1 排泄の意義 2 排尿・排便の生理 3 排泄行動のアセスメント 4 排泄物のアセスメント			講義		
		5 自然な排泄を促す援助 6 便器・尿器を用いた床上での排泄援助 7 おむつによる排泄援助 8 失禁のある人に対する排泄援助			講義・演習		
8	病床での衣生活の援助	1 衣生活の意義、病衣の条件と選択 2 対象に応じた病衣の交換			講義		
9～11	身体の清潔を保つための援助	1 身体清潔の意義 2 皮膚・粘膜の構造と機能 3 清潔援助による身体への影響、爽快感への効果 4 身体の清潔方法とアセスメント			講義		
		5 入浴、シャワー浴への援助 6 全身清拭(石鹸清拭、熱布清拭) 7 陰部洗浄 8 手浴・足浴 9 洗髪(ケリーパット、洗髪車、洗髪台、アルコール洗髪) 10 整容			講義・演習	寝衣交換の演習も含む	
12～14	生活を整えるための援助 1)活動を整える	1 生活とは (1) 生存と生活 (2) 自立とは (3) QOL 2 概日リズム 3 日常生活行動の意義 4 ADLとIADL			講義		
		5 活動・運動の意義 6 活動・運動の効果と廃用症候群 褥瘡の予防 7 活動・運動のアセスメントと援助技術			講義		
		8 移乗・移送の援助 (1) 車椅子での移乗・移送の援助 (2) ストレッチャーでの移乗・移送の援助			講義・演習		
15	2)睡眠を整える	1 休息・睡眠の意義 2 休息・睡眠のアセスメントと援助技術			講義		

評価の方法: 受講状況・筆記試験・レポート

テキスト ①基礎看護技術Ⅰ 医学書院
 ②基礎看護技術Ⅱ 医学書院
 ③看護がみえるVol. 1 基礎看護技術 メディックメディア

令和6年度シラバス(第一看護学科)

30期生 1年次

授業科目		基礎看護技術 3 (日常生活援助技術演習)		単位	1	学習時間数	45
担当教員	宮本 里依子	実務経験	有・無	主な実務経験場所	山口県立こころの医療センター		
目的	対象が安全・安楽に過ごせる日常生活援助技術の基礎を養う。						
目標	1 原理・原則に基づいた日常生活援助技術の基礎を学ぶ。 2 対象の状態を考慮し、安全・安楽な日常生活援助技術の基礎を学ぶ。						
回	項 目	内 容			教授学習方法	備考	
1・2	体位変換	1 ボディメカニクスの原理による体位変換			演習		
3	技術試験	体位変換			技術チェック	レポート	
4	快適な病床の作成	1 ベッドメイキング			演習		
5・6		2 臥床患者のリネン交換					
		3 環境整備					
7・8	技術試験	ベッドメイキング			技術チェック	レポート	
9・10	技術試験	リネン交換			技術チェック	レポート	
11	生活を整えるための援助	1 車椅子での移乗・移送の援助 2 ストレッチャーでの移乗・移送の援助 3 ベッドから車椅子への移乗の援助			演習		
12	自然に排泄するための援助	1 便器・尿器を用いた床上での排泄援助			演習		
13～17	身体の清潔を保つための援助	1 入浴、シャワー浴への援助			演習		
		2 全身清拭(石鹸清拭、熱布清拭)					
		3 陰部洗浄					
		4 手浴・足浴					
		5 洗髪(ケリーパット、洗髪車、洗髪台)					
18・19	技術試験	洗髪			技術チェック	レポート	
20	技術試験	足浴			技術チェック	レポート	
21～23	技術試験	全身清拭・寝衣交換・陰部洗浄			技術チェック	レポート	

評価の方法:受講状況・レポート・技術試験

テキスト ①基礎看護技術Ⅱ 医学書院

②看護がみえるVol. 1 基礎看護技術 メディックメディア

技術試験項目	点数
体位変換	10点
ベッドメイキング	10点
リネン交換	15点
洗髪	15点
足浴	10点
全身清拭・寝衣交換	20点
陰部洗浄	10点
レポート及び受講状況	10点
合計	100点

令和6年度シラバス(第一看護学科)

30期生 1年次

授業科目		基礎看護技術4（診療の補助技術）		単位	1	学習時間数	30
担当教員	宮本 里依子	実務経験	有・無	主な実務経験場所		山口県立こころの医療センター	
目的	診療および治療が効果的に進むための看護技術の基礎を養う。						
目標	1 フィジカルアセスメントの意義を理解し、バイタルサインの測定技術を学ぶ。 2 無菌操作の基本を理解し、感染予防の技術を学ぶ。 3 診療・検査時の看護師の役割を理解し、基本的な検体採取法を学ぶ。 4 非経口的栄養摂取の援助を理解し、経鼻経管栄養法の具体的な方法を学ぶ。 5 無菌操作の基本を基に、安全・安楽な導尿の援助技術を学ぶ。 6 浣腸の危険性や安全に実施するための留意点を理解し、浣腸の援助技術を学ぶ。 7 吸引・吸入の目的と生体への影響を理解し、呼吸を整えるための援助を学ぶ。 8 包帯法の目的・適応を理解し、創傷部位への包帯法を実施する方法を学ぶ。 9 薬物療法における看護師の役割と責任を理解し、安全な与薬を実施するための方法を学ぶ。 10 死について考え、その人らしい尊厳ある死が迎えられる援助について学ぶ。						
回	項 目	内 容		教授学習方法	備 考		
1・2	フィジカルアセスメント	1 フィジカルアセスメントとは 2 包括した概念としてのバイタルサイン 3 体温測定の意義と測定方法 4 脈拍測定の意義と測定方法 5 呼吸測定の意義と測定方法 6 血圧測定の意義と測定方法 7 身体計測の意義と測定方法		講義 演習			
3	安全を守るための技術 （無菌操作）	1 清潔と不潔の取り扱い 2 滅菌物の取り扱い上の留意点 （1）滅菌手袋の装着方法とはずし方 （2）滅菌物の開封方法 3 鑷子・鉗子の扱い方 4 ガウンテクニック		講義 演習	間接介助方法は成人看護学で学習する。		
4	診療・検査時の看護	1 診療・検査時の看護師の役割 2 検査の意義と種類 3 検体の取り扱い方 （1）検体の採取方法（尿・便・喀痰） （2）検査法（尿検査、比重測定 簡易血糖検査 動脈血ガス分析）		講義 演習	静脈血採血は注射法の中で学習する。心電図や超音波検査、X線・CT・MRI検査はME機器の講義と成人看護学で学ぶ。		
5	非経口的栄養摂取の援助	1 経管栄養法 （1）胃カテーテルの挿入 （2）栄養物の注入 2 経静脈栄養法 （1）中心静脈栄養法 （2）末梢静脈栄養法 3 チューブ、ライン トラブル防止の技術		講義 演習			
6	導尿	1 導尿の種類と適応 （1）一時的導尿 （2）持続的導尿 2 導尿の方法 （1）一時的導尿（無菌操作）の実際 3 導尿中の管理		講義 演習			
7	排便を促す援助	1 浣腸の種類と適応 2 浣腸の方法 （1）グリセリン浣腸 （2）高圧浣腸 3 摘便の援助		講義 演習			

回	項 目	内 容	教授学習方法	備 考
8	呼吸を整えるための看護	1 酸素療法(酸素吸入療法) (1) 酸素吸入療法の目的と適応 (2) 酸素供給方式と酸素吸入方法 (3) 酸素療法に関するアセスメント (4) 酸素療法の援助の実際	講義 演習	胸腔ドレナージは成人看護学で学習する。
9		2 吸引 (1) 吸引の目的と適応 (2) 吸引の原理 (3) 吸引の種類 ・口腔 鼻腔 気管 (4) 吸引の援助方法 ・一時的吸引		
		3 吸入 (1) 吸入の目的 (2) ネブライザーの種類と適応 (3) ネブライザー吸入の援助の実際		
10	創傷管理技術	1 創傷管理の基礎知識 2 包帯法 (1) 包帯法の目的 (2) 包帯の種類と適応 (3) 巻軸包帯による包帯法 (4) 三角布による包帯法 (5) 包帯装着中の観察	講義 演習	
11		3 褥瘡予防 (1) ブレーデンスケール		
12	救命救急時の看護	1 止血法の実際 (1) 一次的止血法 (2) 永久的止血法	講義 演習	心肺蘇生法は特別講義で、トリーアージは成人看護学、看護の統合と実践で学習する
	死の看取りの援助	1 死にゆく人と周囲の人々へのケア 2 我が国の風習に根づく死後の処置のあり方 3 死後の処置	講義	死後の処置を中心に学習する
13	効果的な薬物療法のための看護	1 医薬品の取り扱い 2 薬物の体内動態の変化と薬効に影響を与える因子 3 与薬における看護師の責任と役割 4 正しい与薬 (1) 処方箋 (2) 6Rの確認 (3) ダブルチェック 5 与薬の実際 (1) 経口与薬・口腔内与薬 (2) 直腸内与薬 (3) 吸入 (4) 点眼 (5) 点鼻 (6) 経皮的与薬	講義 演習	
14		6 注射部位の基礎知識 7 注射実施方法と評価 (1) 皮下・筋肉内注射 (2) 皮内注射 (3) 静脈内注射 (4) 点滴静脈内注射	講義 演習	
15		8 輸血管理 9 静脈血採血の援助方法 (1) 真空採血管を用いた採血 (2) 注射器による採血	講義 演習	

評価方法 受講状況・筆記試験・レポート

テキスト: ①基礎看護技術Ⅰ ②基礎看護技術Ⅱ 医学書院
③看護がみえるVol.2 臨床看護技術 メディックメディア

令和6年度シラバス(第一看護学科)

30期生 1年次

授業科目		基礎看護技術 5 (診療の補助技術演習)		単位	1	学習時間数	45
担当教員	宮本 里依子	実務経験	○有・無	主な実務経験場所		山口県立こころの医療センター	
目的	対象に診療の補助技術を提供するための基礎を養う。						
目標	対象が安全・安楽に診療を受けられるための援助技術を習得する。						
回	項 目	内 容				教授学習方法	備 考
1～4	フジカルアセスメント	1 バイタルサイン測定 2 身体計測				演習	
5・6	技術試験	バイタルサイン測定(体温・脈拍・呼吸・血圧測定)				技術チェック	レポート
7・8	安全を守るための技術 (無菌操作)	1 無菌操作 (1) 滅菌手袋の装着方法とはずし方 (2) 滅菌物の開封方法 2 鑷子・鉗子の扱い方 3 ガウンテクニックの方法				演習	間接介助方法は成人看護学で学習する。
9・10	技術試験	無菌操作				技術チェック	レポート
11・12	導尿	一時的導尿の実際				演習	
13	排便を促す援助	1 浣腸の実際 2 摘便				演習	
14・15	呼吸を整えるための看護	1 口腔・鼻腔内吸引 2 酸素吸入療法				演習	
16	創傷管理技術	1 巻軸包帯による包帯法 2 三角布による包帯法				演習	
17～20	効果的な薬物療法のための看護	1 与薬の実際 (1) 経口与薬・口腔内与薬 (2) 直腸内与薬 (3) 吸入 (4) 点眼 (5) 点鼻 (6) 経皮的与薬 2 注射の実際 (1) 筋肉内注射 (2) 皮下注射 (3) 皮内注射 (4) 静脈内注射 (5) 点滴静脈内注射 3 静脈血採血の実際 (1) 真空採血管を用いた採血 (2) 注射器による採血				演習	
21～23	技術試験	注射				技術チェック	レポート

評価の方法: 受講状況・レポート・技術試験

テキスト: ①基礎看護技術Ⅰ ②基礎看護技術Ⅱ 医学書院
③看護がみえるVol.2 臨床看護技術 メディックメディア

技術試験項目	配点
バイタルサイン測定	20点
無菌操作	20点
筋肉内注射	40点
点滴静脈内注射	
レポート及び受講状況	20点
合計	100点

令和6年度シラバス(第一看護学科)

30期生 1年次

授業科目		基礎看護技術 6（看護過程）	単位	2	学習時間数	45
			実務経験	主な実務経験場所		
担当教員	宮本 里依子（43）		○有・無	山口県立こころの医療センター		
	非常勤講師（2）		○有・無	備考参照		
目的	看護の知識・経験に基づき、対象の健康上の問題を解決するための看護の展開方法を学ぶ。					
目標	1 看護の専門領域の確立という観点に立った看護過程の意義を理解する。 2 看護過程の構成要素とその構成要素間の関連を理解する。 3 看護過程と看護理論の関係を認識した方法論として理解する。 4 アセスメントの視点を理解する。 5 NANDAの定めた看護診断用語で看護問題を挙げ、看護計画を立案することができる。 6 臨床における看護記録を理解する。 7 看護介入の実施と評価を経過記録およびフローチャートに正確に記録する方法を学ぶ。 8 看護過程全体を見渡し、その全体としての方向性を検討する評価の視点を学ぶ。 9 看護過程展開方法での、問題を推測する過程・解決策を策定する過程・実施および評価の過程においてクリティカルシンキング等の「知的操作技能」を鍛える。 10 紙上事例の看護過程が展開できる。					
回	項 目	内 容		教授学習方法	備 考	
1	看護過程とは	1 問題解決型アプローチとしての看護過程 （1）アセスメント （2）看護問題の明確化（看護診断） （3）看護計画の立案 （4）実施 （5）評価 看護における観察とアセスメント 2 看護理論に基づいたアセスメントの枠組み		講義		
2・3	アセスメントの視点	1 ゴードンの機能的健康パターンの概要 （1）11の機能的健康パターン 2 機能的健康パターンとアセスメント		講義・演習		
4・5	看護問題	1 看護の守備範囲と看護問題の区分 2 NANDAの定めた看護診断 3 日常的に使用する看護診断の概要		講義		
6・7	全体像の把握	1 関連図の書き方 2 問題の統合		講義・演習		
8	看護計画の立案	1 アセスメントの計画への活かし方 2 看護目標とその達成時期の設定 （1）短期目標と長期目標 3 看護計画（OP・TP・EP）の立案方法		講義・演習		
9～13	看護過程展開	1 脳梗塞の事例で看護過程展開		演習		
14	看護記録	1 看護記録とは 法的位置づけ コンピューターシステム化 2 記載管理における留意点 3 看護記録の構成 4 看護記録と倫理		講義	萩市民病院 看護師： 槇峠葵	
15	看護介入の実施	1 実施前の評価と実施後の評価 2 経過記録 （1）SOAP方式		講義・演習		
16	評価	1 評価の視点 2 日々の評価と評価日の評価 3 まとめの評価 （1）看護サマリー		講義・演習		
17	看護要約	1 看護要約の書き方		講義・演習		
18～23	看護過程展開	1 大腿骨頸部骨折の事例で看護過程展開		グループワーク 発表会		

評価の方法：筆記試験、看護過程演習・発表会の参加度

テキスト：①基礎看護技術Ⅰ ②基礎看護技術Ⅱ 医学書院

③看護診断ハンドブック 医学書院 ⑤看護過程に沿った対症看護 学研

令和6年度シラバス(第一看護学科)

30期生 1年次

授業科目		臨床看護総論 1 (経過・治療別看護)		単位	1	学習時間数	30
担当 教員			実務経験		主な実務経験場所		
	吉山 弓子 (26)		有・無		山口県立総合医療センター		
	非常勤講師 (4)		有・無		備考参照		
目的	健康上のニーズをもつ対象及び家族を理解し、健康段階に応じた看護、治療・処置について学ぶ。						
目標	1 健康上のニーズをもつ対象者と家族への看護を理解する。 2 健康状態の経過に基づく看護を理解する。 3 治療・処置を受ける対象者への看護を理解する。 4 医療機器の原理について理解する。						
回	項 目	内 容			教授学習方法	備 考	
1・2・3	健康上のニーズをもつ対象者と家族への看護	1 ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズ (1) ライフサイクルと健康上のニーズ (2) 人のライフサイクルからとらえた看護 (3) エリクソンの発達課題			講義 演習/発表会		
4・5		2 家族の機能からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ 3 人々の暮らしからとらえた対象と家族の健康上のニーズとケアサービスの拠点 (1) 生活と療養の場とは (2) 病院・施設における看護 (3) 在宅における看護			講義		
6	健康状態の経過に基づく看護	1 健康の維持・増進を旨とする時期の看護 2 急性期における看護 (1) 急性期の特徴 (2) 急性期の患者のニーズ (3) 急性期にある患者への看護援助 (4) 危機モデル			講義 協同学習		
7		3 回復期における看護 (1) 回復期の特徴 (2) 回復期の患者のニーズ (3) 回復期にある患者への看護援助 (4) 障害の受容過程			講義 協同学習		
8		4 慢性期における看護 (1) 慢性期の特徴 (2) 慢性期の患者のニーズ (3) 慢性期にある患者への看護 (4) 病みの軌跡、変容ステージモデル、セルフケア理論			講義 協同学習		
9		5 終末期における看護 (1) 終末期の特徴 (2) 終末期の患者のニーズ (3) 終末期にある患者への看護 (4) グリーフケア			講義 協同学習		
10～13		治療・処置を受ける対象者への看護	1 輸液療法を受ける対象者の看護 2 化学療法を受ける対象者への看護 3 放射線療法を受ける対象者への看護 4 手術療法を受ける対象者への看護 5 集中治療を受ける対象者への看護 6 身体侵襲を伴う検査・治療を受ける対象者への看護			講義/DVD 演習	
14・15	医療機器の原理と実際	1 医療機器とは 医療機器を使用するための基礎知識 2 医療機器取り扱いの留意事項			講義	都志見病院 臨床工学技士： 田村芳生	
	試験	筆記試験					

評価の方法: 筆記試験 (80点) 事前課題・演習参加度 (20点)

テキスト: 系統学看護学講座 専門分野 臨床看護総論, 医学書院

舟島なをみ著: 看護のための人間発達学, 医学書院

中範囲理論入門, 日総研

令和6年度シラバス(第一看護学科)

30期生 1年次

授業科目		臨床看護総論 2 (症状別看護)		単位	1	学習時間数	30
担当教員	吉山 弓子	実務経験	有・無	主な実務経験場所		山口県立総合医療センター	
目的	主要な症状を解剖生理・病理的变化と関連づけ、フィジカルアセスメントの方法について学ぶ。						
目標	1 看護におけるフィジカルアセスメントの意義及び基礎技術を理解する。 2 呼吸障害時の看護を必要な観察技術及び症状と関連づけながら理解する。 3 循環障害時の看護を必要な観察技術及び症状と関連づけながら理解する。 4 意識・感覚・運動障害時の看護を必要な観察技術及び症状と関連づけながら理解する。 5 消化器症状のある患者の看護を必要な観察技術及び症状と関連づけながら理解する。						
回	項 目	内 容				教授学習方法	備 考
1	病態関連図	1 病態関連図演習のオリエンテーション 2 病態関連図の記載方法 3 呼吸に関連する症状を示す対象者への看護 事例の病理・解剖生理、病態の理解、臨床症状 (肺炎など)				講義	
2・3		4 循環に関連する症状を示す対象者への看護 事例の病理・解剖生理、病態の理解、臨床症状 (心筋梗塞など) 5 栄養や代謝に関連する症状を示す対象者への看護 事例の病理・解剖生理、病態の理解、臨床症状 (大腸がん、糖尿病など) 6 排泄に関連する症状を示す対象者への看護 事例の病理・解剖生理、病態の理解、臨床症状 (腎不全など) 7 認知・感覚機能障害に関連する症状を示す対象者への看護 事例の病理・解剖生理、病態の理解、臨床症状 (脳梗塞など)				講義 演習	
4		病態関連図発表会				発表会	
5		フィジカルアセスメントとは	1 フィジカルアセスメントの意義 2 身体診察とフィジカルアセスメント				講義/DVD 演習
6	フィジカルアセスメント総論	1 問診(面接)の技術 2 身体診察の基本 視診・触診・聴診・打診				講義/DVD 演習	事前課題
7・8		1 呼吸系のアセスメント (1) 胸郭と肺のアセスメント (2) 呼吸音のアセスメント				講義/DVD 演習	事前課題
9・10		2 循環器系のアセスメント (1) 頸部のアセスメント (2) 胸部のアセスメント (3) 末梢循環系のアセスメント				講義/DVD 演習	事前課題
11・12		3 腹部のアセスメント (1) 腹部全体のアセスメント (2) 腹水のアセスメント (3) 肝臓のアセスメント (4) 腎臓のアセスメント				講義/DVD 演習	事前課題
13・14		4 脳・神経系のアセスメント (1) 意識のアセスメント (2) 脳神経のアセスメント (3) 運動機能のアセスメント (4) 反射のアセスメント (5) 感覚機能のアセスメント 5 筋・骨格系のアセスメント (1) 関節可動域 (ROM) の測定 (2) 徒手筋力検査 (MMT)				講義/DVD 演習	事前課題
15		フィジカルアセスメントのまとめ	1 フィジカルアセスメントの要点整理 2 事例に基づいたフィジカルアセスメント				演習
	試験	筆記試験					

評価の方法: 筆記試験 (80点)・事前課題・演習参加度 (20点)

テキスト: 看護がみえるVol. 3 フィジカルアセスメント メディックメディア

看護過程に沿った対症看護第4版 Gakken

系統学看護学講座 専門分野 基礎看護技術 I 医学書院

令和 6 年 度 シ ラ バ ス (第一看護学科)

30期生 1 年次

授業科目		コミュニティ論 1		単位	1	学習時間数	15
担当教員			実務経験		主な実務経験場所		
	稲葉 紫保：(14)		有・無		山口県立総合医療センター		
	非常勤講師：(2)		有・無		備考参照		
目的	看護の対象を生活者としてとらえ、地域で生活する人々の暮らしを理解する。						
目標	1 看護の対象を生活者として捉えることができる。 2 生活の場としての地域（コミュニティ）を理解する。 3 地域の特性を把握し、人々の健康状態との関連を考えることができる。						
回	項 目	内 容				教授学習方法	備考
1	人々の暮らし	1 人々の暮らしの理解 (1) 暮らしとは (2) 暮らしと健康の関係 (3) 暮らしのなかで健康をとらえる 2 地域・在宅看護とは				講義 協同学習	
2	暮らしの基盤としての地域	1 暮らしと地域 (1) 地域の定義 (2) 人々の暮らす地域の多様性				講義 協同学習	
3	萩地域の特性	1 萩地域の特性や生活環境を知る (1) 人口の特徴 (2) 自然環境 (3) 社会的環境 (4) 文化的環境				講義	萩市保健部 地域医療推進課： 神崎公克
4	暮らしと 地域のかかわり 暮らしと 健康のかかわり	1 フィールド学習のオリエンテーション (1) 人々の生活圏・生活環境 (2) そこに暮らす人々の思い				フィールドワーク 発表会	堀内地区など
5		2 フィールドワーク (1) 学校周辺の地域や生活環境 (2) 地域に暮らす人々の思い					健康福祉センター
6		3 まとめのカンファレンス (1) 学校周辺の地域や生活環境 (2) 地域に暮らす人々の思い (3) 地域での暮らしと健康について					保健センター
7							市役所
8		4 学習会 (1) 学びの発表と意見交換 (2) まとめ					児童センター

評価の方法：事前に示した課題（30点）

参加意欲・姿勢（主体性・協調性・誠実性）（50点）

プレゼンテーション：グループ評価（20点）

テキスト：系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 1 医学書院

令和 6 年 度 シ ラ バ ス (第一看護学科)

30期生 1年次

授業科目		コミュニティ論 2		単位	1	学習時間数	15
担当教員			実務経験		主な実務経験場所		
	稲葉 紫保：(3)		有 無		山口県立総合医療センター		
	非常勤講師：(12)		有 無		備考参照		
目的	地域で生活する場の多様性と地域包括ケアシステムにおける保健・医療・福祉の役割と連携を理解する。						
目標	1 地域で生活する場の多様性を理解する。 2 地域で生活する人々への健康の保持増進や疾病予防の支援について理解する。 3 福祉施設で生活する人々の生活支援について理解する。 4 障害者の生活支援について理解する。 5 在宅で生活する療養者とその家族がその人らしく生活できる支援を理解する。 6 地域包括ケアシステムの中での施設の役割及び多職種の連携について理解する。						
回	項 目	内 容			教授学習方法	備考	
1	地域で生活する人々の健康を支援する	1 地域包括支援センター (1) 地域包括ケアシステムの概念 (2) 地域包括支援センターの役割 (自助・互助・共助・公助の意義と役割) (3) 多施設・多職種連携			講義	萩市地域包括支援センター： 保健師 俣賀由紀子	
2		1 保健センターの機能と役割 (1) 保健センターの機能と役割 (2) 多施設・多職種連携			講義	萩市保健センター： 保健師 河上屋里美	
3	地域で療養する人々の生活支援	1 診療所 (1) 地域の特徴と療養する人々の生活 (2) 診療所の機能と役割 (3) 多施設・多職種連携			講義	むつみ診療所： 看護師 野尻妙子	
4		1 訪問看護ステーション (1) 地域で療養する人々の生活 (2) 訪問看護ステーションの機能と役割 (3) 多施設・多職種連携			講義	訪問看護ステーション： 看護師 阿武由美子	
5	福祉施設で生活する人々の支援	1 特別養護老人ホーム・認知症高齢者グループホーム (1) 福祉施設における人々の生活 (2) 福祉施設の機能と役割 (3) 多施設・多職種連携			講義	介護保険施設： 生活相談員 北川宗生	
6	地域共生社会	1 障害者の生活支援 (1) 地域で暮らす障害者の生活 (2) 地域で障害者を支援する仕組み (3) 多施設・多職種連携			講義	萩市福祉部福祉支援課： 保健師 石川佳世子	
7	地域で健康的に生活するために	1 地域資源マップ			グループワーク		
8	試験				試験		

評価の方法：事前に示した課題・レポート（80点）
参加意欲・姿勢（主体性・協調性・誠実性）（20点）

テキスト： 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 1 医学書院

令和6年度シラバス(第一看護学科)

30期生 1年次

授業科目		成人看護学概論		単位	1	学習時間数	30
担当教員	村上 陽子	実務経験	(有)・無		主な実務経験場所	山口県立総合医療センター	
目的	成人期にある対象を理解し、対象とその家族に対して、健康の保持・増進、疾病の予防、健康レベルに応じた看護を学ぶ。						
目標	1 成人の特徴を理解する。 2 成人各期の特徴を身体的・精神的・社会的側面から理解する。 3 成人に特有な健康問題の特徴を理解する。 4 成人の健康レベルに応じた看護実践について理解する。 5 成人を看護するときの基本的なアプローチを理解する。 6 成人看護の主要概念を理解する。						
回	項 目	内 容				教授学習方法	備 考
1	成人の特徴	1 成人の特徴 (1) 生涯発達の特徴				講義	
2		(2) 青年期の特徴 身体の発達 心理・社会的発達					
3		(3) 壮年・中年期の特徴 身体の発達 心理・社会的発達					
4		2 現代の生活状況 (1) 家族形態と機能 (2) 職業の種類と就業環境					
5	成人に特有な健康問題の特徴とその予防に向けた看護	1 生活習慣病に関連する健康課題					
6		2 職業に関連する健康課題					
7		3 ストレスに関連する健康課題 4 ヘルスプロモーション					
8		1 自己効力感・健康信念モデル 2 変容ステージモデル 3 ストレスコーピング理論					
9							
10							
11	成人の特性や能力に応じたアプローチ	4 成人教育の原理 (1) アンドラゴジー エンパワメント アドヒアランス 学習支援					
12～14		(2) 患者教育のアセスメント アセスメント 指導案 指導の実際					
15	試験	筆記試験					

評価の方法：(試験90点・レポート10点)

テキスト：医学書院 系統的看護学講座 専門分野 成人看護学1 成人看護学総論

医学書院 系統的看護学講座 専門分野 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ

参考文献：日総研 事例を通してやさしく学ぶ中範囲理論入門

医歯薬出版株式会社 医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎 生活習慣を中心に

医歯薬出版株式会社 医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎 実践編

国民衛生の動向

令和6年度シラバス(第一看護学科)

30期生 1年次

授業科目	老年看護学概論		単位	1	学習時間数	30
担当教員			実務経験	主な実務経験場所		
	高島 雄太：(26)		⑦・無	山口県立こころの医療センター		
	非常勤講師：(4)		⑦・無	備考参照		
目的	老年期にある人の身体的・精神的・社会的変化を理解する。また、高齢者を取りまく保健医療福祉の概要と課題を学ぶ。					
目標	1 老年期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から理解できる。 2 高齢者を取りまく保健医療福祉の活動を理解できる。 3 老年看護の意義と役割を理解できる。					
回	項 目	内 容		教授学習方法	備 考	
1	老年期にある人の理解	1 ライフサイクルからの老年期の理解 (1) 老年期とは (2) 老年期の発達と成熟 a エリクソンの発達課題 b ハヴィガーストの発達課題 (3) 加齢による精神的・社会的側面の変化		講義		
2		2 統計的特徴からの老年期の理解 (1) 人口学的指標 (2) 健康指標 (3) 高齢者の暮らし a 経済状態 b 住まい c 就業 d 社会活動・社会参加				
3・4		3 加齢による身体的側面の変化 (1) 加齢によっておこる各機能の変化		演習		
5・6		(2) 高齢者疑似体験				
7		4 高齢者の多様性 (1) ライフヒストリー 生きた時代・暮らし		演習		
8	老年期を取りまく社会	1 高齢者とソーシャルサポート (1) フォーマルサポートとインフォーマルサポート (2) 高齢者と家族のライフサイクル (3) 高齢者の介護と家族問題		講義		
9		2 保健医療福祉システム (1) 老人福祉法 (2) 高齢者の医療の確保に関する法律				
10		(3) 介護保険制度 a 制度の理念・しくみ b 申請から利用までの流れ c 介護保険サービス		講義	萩市地域包括支援センター保健師：俣賀由紀子	
11		3 高齢社会における権利擁護 (1) 高齢者に対するスティグマ a スティグマ b エイジズム c アドボカシー (2) 高齢者虐待 (3) 権利擁護のための制度 a 成年後見制度 b 日常生活自立支援事業 (4) 身体拘束		講義		
12	老年看護の意義と役割	1 老年期における健康の考え方 (1) スミスの4つの健康モデル (2) ウェルネスの概念 2 老年看護の実践を支える概念と理論 (1) ICF (2) エンパワーメント (3) ストレngthモデル (4) ライフヒストリー 3 老年看護に携わる者の責務 (1) 高齢者のための国連原則		講義		
13		4 老年看護の活動の場 (1) 病院・施設における老年看護活動 (2) 在宅における老年看護活動				
14		(3) 特別養護老人ホームにおける多職種連携と看護師の役割		講義	特別養護老人ホームオアシスはぎ園 看護師：木村清人	
15	試験	筆記試験				

評価の方法：筆記試験(80点)・課題・グループ学習参加状況(20点)

テキスト：北川公子他：系統看護学講座 専門分野 老年看護学，医学書院

鳥羽研二他：系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論，医学書院

令和6年度シラバス(第一看護学科)

30期生 1年次

授業科目		小児看護学概論 1 (成長・発達)		単位	1	学習時間数	15
担当教員	篠田 由佳里	実務経験	有・無	主な実務経験場所		山口県立総合医療センター	
目的	小児の特徴を理解し、小児各期の成長・発達と発達課題を学ぶ。また、健康な小児の日常生活の援助方法を学ぶ。						
目標	1 小児の特徴を理解する。 2 小児各期の成長・発達と発達課題を理解する。 3 小児看護に必要な子供の発達理論について理解する。 4 子どもと家族を理解するための家族理論について理解する。 5 小児の日常生活について理解する。						
回	項 目	内 容			教授学習方法		備 考
1, 2	小児看護の対象	1 小児の特徴 (1) 子どもの概念の形成、小児看護の対象 (2) 小児看護の目的 2 小児の分類 (1) 小児期の年齢区分 (2) 小児各期の発達課題			講義 映像		
	小児の成長・発達	1 成長・発達の原則 (1) 方向性・順序性・発達の時期 2 成長・発達に影響する因子 (1) 遺伝的因子・環境的因子 3 成長・発達の評価 (1) 成長の評価 (2) 発達の評価			講義 映像		
3	小児各期の成長・発達	1 新生児期・乳児の特徴 (1) 生理機能 (2) 形態的特徴 (3) 運動機能の発達 (4) 精神機能の発達			講義 映像		
4	小児各期の成長・発達	2 幼児の特徴 (1) 生理機能 (2) 形態的特徴 (3) 運動機能の発達 (4) 精神機能・社会性の発達					
5	小児各期の成長・発達	3 学童の特徴 (1) 形態的特徴 (2) 運動機能の発達 (3) 精神機能・社会性の発達 4 思春期・青年期の小児の特徴 (1) 形態的特徴 (2) 生理機能 (3) 精神機能・社会性の発達					
6, 7	小児の生活	1 日常生活の世話 (1) 栄養 (2) 排泄 (3) 睡眠 (4) 清潔 (5) 遊びと学習 (6) 環境の調整 (事故予防・感染予防)			講義 映像		
8	試験	筆記試験					

評価の方法：筆記試験

テキスト：系統的看護学講座小児看護学I(医学書院)

参考文献：根拠と事故防止から見た小児看護技術(医学書院) 看護のための人間発達学(医学書院)

令和 6 年 度 シ ラ バ ス (第一看護学科)

30期生 1年次

授業科目		母性看護学概論		単位	1	学習時間数	15
担当教員	田中 里紗	実務経験	有・無	主な実務経験場所		山口県立総合医療センター	
目的	母性の特性を理解し、母子及びその家族の健康の維持・増進、疾病の予防のための看護を学ぶ。						
目標	1 母性看護の概念と意義を理解する。 2 人間の性と生殖の意義を理解する。 3 母性看護の対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解する。 4 母性看護の沿革と現状を理解する。 5 母性保健活動と看護の役割について理解する。						
回	項 目	内 容			教授学習方法	備 考	
1	母性看護の概念	1 母性、父性、親性 2 家族の発達・機能 (1) 家族を中心としたケア			講義		
2		3 性の概念 4 セクシュアリティ 5 人間の性と生殖の意義 6 リプロダクティブヘルス／ライツ (1) 女性を中心としたケア 7 母性看護学で用いられる理論 (1) 愛着、絆 (2) 母親役割獲得の過程 (3) 母子相互作用 (4) 父子相互作用 8 母性看護における倫理			講義 グループワーク		
3		1 女性生殖器の機能 2 性周期と生殖機能のメカニズム			グループワーク		
4		3 妊娠と胎児の性分化 4 性未分化疾患の人のケア			講義		
		母性の特性			講義		
5		1 母性の世代間伝達 2 母性看護の歴史的変遷 3 母子保健統計			講義		
6		4 母性看護に関する組織・法律・施策 5 母性看護の対象を取り巻く環境			講義 グループワーク		
7		1 女性のライフサイクルと家族 2 女性のワークライフバランス 3 母性保健活動内容、活動の場 4 母性看護の役割			講義 グループワーク		
8	試験	筆記試験					

評価の方法：筆記試験（100点）

テキスト：系統看護学講座 専門分野 母性看護学〔1〕 母性看護学概論 医学書院
国民衛生の動向 厚生統計協会

令和 6 年 度 シ ラ バ ス (第一看護学科)

30期生 1年次

授業科目		精神看護学概論 1（基本的概念）		単位	1	学習時間数	15
担当教員	堂端 竜志	実務経験	（有）・無	主な実務経験場所		山口県立こころの医療センター等	
目的	精神看護の対象やこころの健康について学び、こころの健康を保持・増進するための看護の役割を学ぶ。						
目標	1 看護学における精神看護学の位置づけを理解する。 2 こころの健康についての考え方を理解する。 3 こころの発達について理解する。 4 危機的状況とその介入方法を理解する。						
回	項 目	内 容				教授学習方法	備考
1	精神看護学の基本的概念	1 精神看護学とは 2 精神看護学の対象 3 精神看護と精神科看護 4 精神保健の定義 5 精神保健の領域				講義	
2	こころの理解とこころの健康	1 こころとは 2 こころの概念 （1） 脳の仕組みと精神機能 （2） 神経細胞と神経伝達物質 （3） 心の機能と発達 （4） ストレス脆弱性仮説 3 こころの健康				講義	
3	こころの発達と健康	1 フロイト：精神的発達 （1） 心的構造論 （2） 発達論 2 環境と適応（防衛機制）				講義	
4	ストレスと精神保健	1 ストレスとその反応 2 ストレス対処行動 3 ストレスと精神保健				講義	
5	危機状況とこころの働き	1 危機理論 （1） 危機の概念 （2） 予防と介入 （3） 危機介入の段階				講義	
6		2 災害時地域精神保健医療活動 （1） リスクマネジメントと危機管理 （2） 緊急事態におけるストレス （3） 心的外傷体験 （4） 危機管理におけるメンタルヘルス （5） 災害時の活動					
7	リエゾン精神看護	1 精神の健康とマネジメント 2 リエゾン精神看護の機能と役割 3 他職種連携と看護の役割				講義	
8	筆記試験						

評価の方法：筆記試験

テキスト：医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 1・2

令和6年度シラバス(第一看護学科)

授業科目	基礎看護学実習1 (療養の場を知る実習)	担当 教員	宮本 里依子	開講 年次	1年次前期	単位数	1	時間数	45
実務経験	臨地実習のため、「実務経験のある教員等による授業科目」に該当								
目的	入院している対象の生活環境および看護の実際を知る。								
目標	1 看護が提供されている場としての病院を知る。 2 入院している対象の生活環境を知る。 3 入院している対象の療養生活と看護師のかかわりの実際を知る。 4 看護師の役割と責任を理解し、誠実性・協調性・積極性を身につける。 5 実習をとおして、その人らしい生活を支える看護について考える。								
実習計画	1 実習期間 5日間 2 実習施設 長門総合病院 西2階病棟、3階病棟、本館3階病棟、4階病棟、5階病棟 3 実習方法 (1) 病院オリエンテーション、病院におけるリスクマネジメント(実習1日目) (2) 看護師に同行し看護の実際を見学する。(2日間) (3) 学内学習日 (実習4日目) テーマカンファレンス「療養環境と看護」 (実習5日目) 全体学習会 病棟毎に実習の学びをまとめ、文献等でエビデンスを確認する。 全体学習会で情報共有し、学びを深める。								
評価方法	実習態度、実習記録内容、カンファレンスの参加状況、レポートを総合的に判断して評価する。								
テキスト	講義で提示したもの、実習要綱を使用する。								

令和6年度シラバス(第一看護学科)

授業科目	基礎看護学実習2 (日常生活援助を学ぶ実習)	担当 教員	宮本 里依子	開講 年次	1年次後期	単位数	2	時間数	90
実務経験	臨地実習のため、「実務経験のある教員等による授業科目」に該当								
目的 対象を理解し、対象の状態に応じた日常生活援助技術を身につける。									
目標 1 対象の健康状態や生活の状態を把握し、必要な日常生活援助を考える。 2 対象に応じた日常生活援助技術を原理・原則に基づいて実施する。 3 実施した援助を振り返り、対象に応じた援助について考える。 4 対象および家族への対応を身につける。 5 看護師の役割と責任を理解し、誠実性・協調性・積極性を身につける。 6 実習をとおしてその人らしい生活を支える看護について考える。									
実習計画 1 実習期間 11日間 2 実習施設 長門総合病院 西2階病棟、3階病棟、本館3階病棟、4階病棟、5階病棟 3 実習方法 1人の患者を受け持ち、患者に応じた日常生活援助を実施する。 (1) 実習オリエンテーション、感染防止対策(実習2日目) (2) カンファレンス(実習6～9日目のうち、1～2回程度) 事例をもとにカンファレンスを行う。 (3) 学びの会(実習10日目) 情報の共有を行い、学びを深める。 (4) 学内学習日 (実習1日目) 受け持ち事例の事前学習を行う。 技術練習を行う。 (実習6日目頃) 事例に合わせた技術練習を行い、援助計画を修正する。 (実習11日目) 実習の経験を振り返り、自己の学びをまとめる。文献等でエビデンスを確認する。 グループで情報共有を行い、学びを深める。									
評価方法 実習態度、実習記録内容、カンファレンスの参加状況、レポートを総合的に判断して評価する。									
テキスト 講義で提示したもの、実習要綱を使用する。									

令和6年度シラバス(第一看護学科)

授業科目	コミュニティ実習	担当 教員	稲葉紫保	開講 年次	1年次前期	単位数	1	時間数	45
実務経験	臨地実習のため、「実務経験のある教員等による授業科目」に該当								
目的 地域で暮らす人々の生活の場の多様性を知るとともに看護の場の多様性について学び、医療や看護に対するニーズに気付く。									
目標 1 地域で暮らす人々とその生活環境を理解する。 2 地域の暮らしを支える保健医療福祉活動の実際を知り、生活のニーズを理解する。 3 医療や看護に求められているニーズについて考える。 4 看護師の役割と責任を理解し、誠実性・協調性・積極性を身につける。									
実習計画 1 実習期間 5日間 2 実習施設 - 市保健センター - 地域包括支援センター - 訪問看護ステーション - 特別養護老人ホーム - グループホーム - デイサービスセンター 3 実習方法 実習ラウンド表に基づき、グループに分かれ実習する。 (1)実習開始時、施設のオリエンテーションを受ける。(施設の概要) (2)実習終了時、各施設で振り返りを行う。 (3)同行実習(2日間) 指導者に同行し、施設で暮らす人々の生活の場と暮らし方を見学する。 指導者に同行し、施設で暮らす人々への関わりを見学する。 (4)学内学習日 (実習1日目) オリエンテーション 調べ学習 実習施設の機能と役割について調べる。 (実習4日目) 全体学習会準備 実習施設毎に実習の学びをまとめる。(ICTの活用) (実習5日目) 全体学習会 実習施設毎の学びを共有する。									
評価方法 実習評価表に基づき、グループワークの参加状況、実習場面の観察、実習記録の記載状況、個人面接、実習レポートなどを総合的に評価する。									
テキスト 地域・在宅看護論									